



新病院における手術部門 の役割・新たな構想

手術室室長・麻酔科部長 井手 政信



後列中央が麻酔科部長の井手医師

～構成～

手術部門は主に手術をする手術室（現4室）と医療物品の請求・納品・払い出しなどの管理業務、手術や病棟で使用する物品の洗浄・消毒・滅菌業務を行っている中央材料室に分かれます。

スタッフは外科系及び麻酔科医師・手術室専門看護師・看護助手が中心に業務を安全かつ効率的に業務を行っています。

～役割～

外科・整形外科・脳外科・泌尿器科・皮膚科・眼科を中心に予定・緊急手術対応も24時間体制で待機しており、急性期病院として院内外で重要な役割を担っております。

～現状～

医療は日々進歩しており、特に外科手術の技術・器材の進歩は目覚ましいものがあります。手術部門もその進歩に対応するべく、手術部門の拡張・新機器の導入が望まれており、現在、新手術部門に向け対応を進めている最中です。

～構想～

新手術部門では、手術室数を5室に増やし、新たにより高い清潔・衛生操作に対応する部屋（Bio Clean Room: バイオクリーンルー



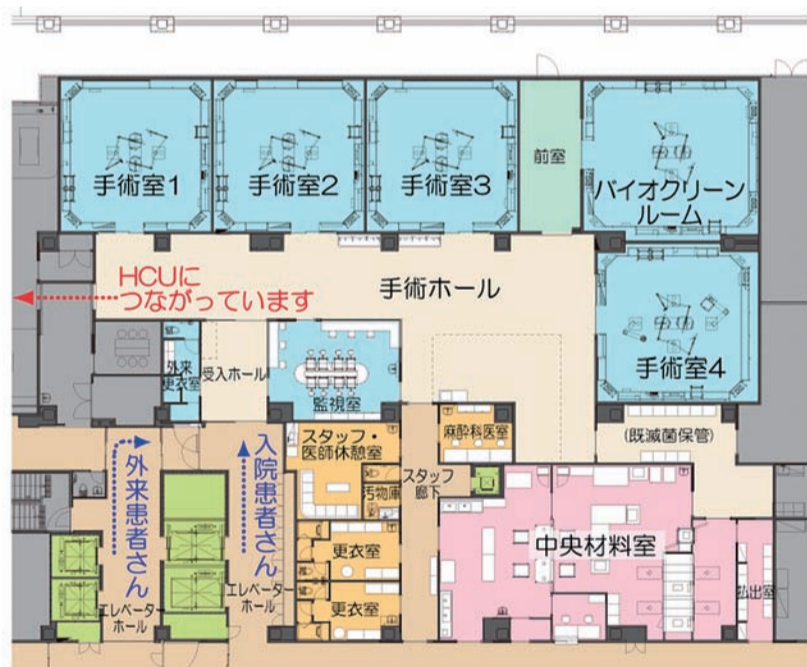
手術室イメージ

ム) も作ります。

また手術室拡張に合わせて専門スタッフの拡充もします。あらゆる手術に速やかに、安全に対応すべく、麻酔・看護記録電子システム・中央材料室の新器材も導入し、より高いレベルでの手術室業務の施行及び安全・業務効率化を目指すこととなります。

～展望～

新利根中央病院は、急性期対応病院として救急・手術・HCU部門が一体となり、安心・安全な利根沼田地域の医療に更に貢献していくべく準備を進めております。今後ご指導含め、応援のほどよろしくお願いいたします。



手術ホール平面図

建設現場の進捗

基礎工事が終了し、4月21日から鉄骨建方が始まりました。

愛知の工場で作成された鉄骨が次々と搬入され、第1節（1～3階）の鉄骨建方が終了しました。



コージェネレーションシステムの導入について

(株) エネルギーアドバンス(東京ガス100%子会社)

コージェネレーション（以下、CGS）システムは、昨今の電力料金値上がりや節電機運の高まり、また非常時の停電対策としても注目を集め、近年急速に普及しているシステムです。新病院に導入されるCGSシステムの特徴とメリットについてご紹介します。

①CGSシステムとは

環境性に優れた天然ガスを用いて発電し、同時に発生する廃熱を建物内の空調や給湯に利用することができる省エネシステムです。従来の火力発電所では送電ロスが大きく、利用できるのは入力エネルギーの40%程度ですが、CGSシステムでは利用場所で発電をし、また廃熱を有効利用することにより実に入力エネルギーの70～85%を利用できることが特徴です。新病院では、建物全体の電力使用量の約28%をCGSシステムで賄います。

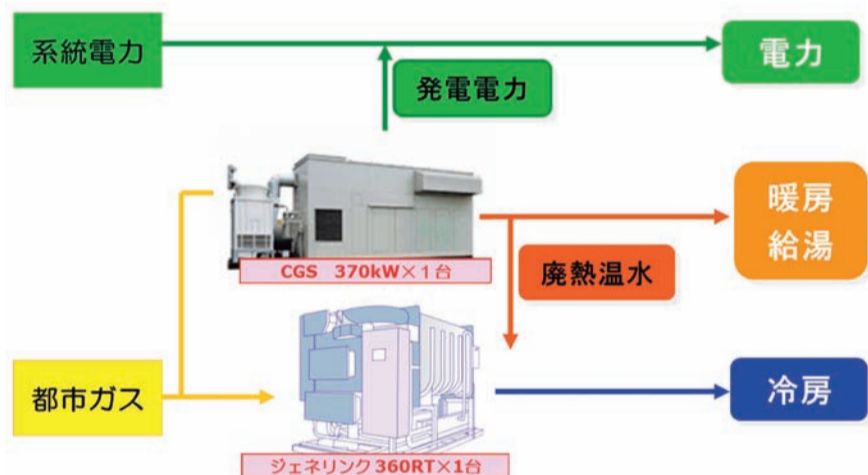


図1 新病院におけるCGSシステム

②節電効果と省コスト

都市ガスで発電することにより電力会社から購入する電力量の節電ができ、大きな省コストとなります。

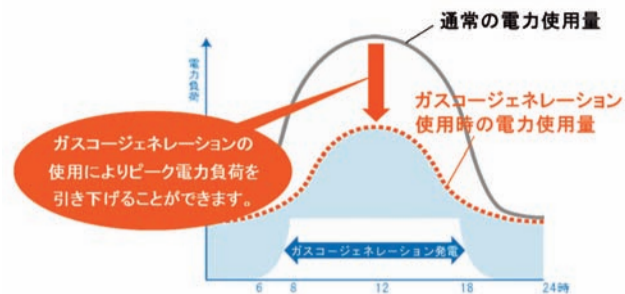


図2 節電効果について

③電源セキュリティの向上

常時発電をすることで省エネや省コストを実現できるだけでなく、停電時には都市ガスの供給が継続されている限り、照明や設備を稼働するための電力等に対し、一定の電力供給が可能です。新病院は、地域の「防災拠点」として機能維持が重要となりますが、CGSシステムの導入により電源セキュリティの向上が図れます。



図3 停電時のCGSによる電力供給

④補助金の活用

CGSは環境保全に寄与するものとして、国も積極的に普及を促進しています。新病院では、(社)都市ガス振興センター（経済産業省系）の補助金を活用する予定です。

患者目線で「病室モデルルーム」見学班会

見学班会でも「増資」を受け付けています！



早速、5月7日から組合員さんの見学班会が始まりました。第1号は、川場支部中野班です。

「新病院までは遠く感じなかった」「4床室も広いですね」「木目調は落ち着きます」「ベッドから起き上がる時、メディカルコンソールが邪魔にならないかな？ちょっと横になって確かめてみよう」と、患者目線で多くの意見を寄せていただきました。

メディカルコンソールとは：医療ガス、酸素等の設置ユニット

～8月末まで受付中～

◆問い合わせ先

組織部 (☎22-2300)